

令和元年度

那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画委員の評価集計及び総合評価

基本目標3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
＜基本目標に対する総合評価：B＞

【小委員会メンバー】

橋本秀晴委員・佐藤峰子委員・相馬秀和委員・高橋美代子委員・原玉海委員・
松本和重委員

3-1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり 評価：B

- ・介護関係にはボランティアが来るが、障害者関係にはなかなか来ない。
- ・地域の中で障害を理解することは難しい。障害について理解のある方にボランティアにあたってもらいたい。災害時の避難所についても、一箇所に集められてしまったらパニックを起こしてしまう。

3-2 地域福祉活動の担い手の育成 評価：B

- ・介護支援ボランティアの登録者が増えている。この事業に期待している。介護の現場では、資格を持った介護職が家事手伝いなどを行っているが、介護ボランティアにできることとできないことを明確にした上で活用していけば、作業効率が上がる。事業の対象者が65歳以上となっているが、対象年齢を広げた方が良いのではないか。
- ・介護ボランティアポイント事業の認知度が低い。高齢者のサロンについても数は増えているが、内容をもう少し充実させて、活性化させた方が良い。元気な高齢者を有効に生かせるように、行政から情報を出した方が良い。

3-3 地域でのつながりづくり 評価：B

- ・ひとり親家庭対象の日常生活支援事業も利用度が高い。若い人のひきこもりが

多い。地域で見守りをしながら友達になって励ましていければ良いと思っている。

・厚生労働省では、介護予防・日常生活支援総合事業を立ち上げ、那須塩原市でも住民主体によるサービス提供事業（サービス B 型）が始まる予定となっている。啓発していけたらと考えている。

・老人クラブのクラブ数も加入者数も全国的に減少しており、危機感を持っている。一方で高齢者は増加している。“老人”という名称が悪いこともある。60 歳以上が対象になっているが、60 歳と 100 歳ではニーズが全く違う。高齢者のひきこもりは増えていくと思う。

・移動手段がなく、現実的に出られない。引きこもらざるを得ない状況だと思う。

・デイサービスがあるが、移動手段がない人に行政が何とか検討して欲しい。

・シルバー大学校の OB との連携は考えられないか。

・うまくタイアップできれば良いと思う。60 代の人が入ってくるとぽつんとしている。多様化するニーズに対応していかなければならない。

・組織の閉そく感も問題かと思う。